

早期交通開放できる コンクリート舗装

■普及目指す長水生コン

打設後1日(24時間)

以内で車両が通行できるようになる「早期交通開放型コンクリート舗装」1DAY PAVE(ワンデイペイブ)の施工がこのほど長野市内で行われた。現場は観光客や宿泊客ら入通りが多く、車両も通行する道路。一刻も早い交通開放を求める地元の声に応えようと、施工者がワンデイペイブを選択した。北信エリアでは初の導入

「何でもすれば利己主義に陥るから気を付けない」というのを、仏様のような寓話を用いて説明しているのではと感づきます。

◆今回の事件ももし「相手を住む」の「心」を考えた

『ワンデイペイブ』

北信で初の施工事例



観光客らが多く通る小路で施工したワンデイペイブ。翌日には表層工の作業に入った

事例。材料を供給した長水生コンクリート事業協同組合は同現場を足掛かりにワンデイペイブの普及を目指す考えだ。

施工を手掛けたのは守谷商会(長野市)。11月26日の午前9時から2時間半ほどかけて、生コン約24m(曲げ4・5-40-25H)を打設した。延長約36m、幅

4・35m(面積約155㎡)を施工。同日午後には、施工エリアに入ってから作業し、翌日にはコンクリートカッターで目地入れの施工に入った。



術専門学校で行われた技能五輪「構造物」に出場した赤羽優平さん

服した技術で、国土交通省の「NETIS」にも登録されている。特殊なセメントや高価な混和材を使わないため、普通の生コン工場でも入手可能な材料で製造・出荷でき、冬期でも早期開放に必要な強度を得られる。

現場責任者として施工に当たった守谷商会土木事業本部の高野貞美工事所長は、通常の生コンよりは割高となるワンデイペイブについて、「観光地などで地元要望に応じて早期に人や車両が通行できるようにすることは、安全な全管理や地元対策の上で大きなメリットがある」と語る。早期交通開放や工期短縮といったプラスアルファを地域住民や発注者に提案できることは「施工者としての強みにもなり、イメージアップにもつながる」とする。

ワンデイペイブの利便性を提案した長水生コンクリート事業協同組合で営業を担当する関谷信一氏は「こうした施工者さんの生の声や事例を生かしながら、ワンデイペイブを普及させたい」と話している。